

新人生の皆様へ

入学おめでとうございます。私が大学に入学したのは1991年です。皆さんはまだ生まれていませんね。当時は学生として、今は教員としてですが、これまで常に大学の中で生活してきました。この間、日本の大学は大きく変わった部分もありますが、重要な部分は変わっていない、というか変えてはならないように思います。

変えてはならない最大のものは大学の目的です。大学は真理を探究する場であるべきです（美大の方は真理を「美」とでも置き換えてください）。もちろん、何が真理なのかがはっきりしている学問分野もあれば、そもそも真理とは何かについて争いのある分野もあります。そういった限定付きですが、真理探究が大学の目的であり、存在意義であることは、我々大学にかかわるほとんどの者の共通理解であろうと思います。

大学の目的が真理探究であるということは、大学の魅力であると同時に、やっかいな点でもあります。たとえば企業の最大の目的は利益の追求です。もちろん、顧客の満足や社会貢献も重要ですが、利益を生まない企業は存続できません。利益とは要するにお金のことなので、数値化できます。これに対して真理は数値化できず、どの程度真理に近づいたかを問うことに意味はありません。このため大学という存在は、客観的な評価がしにくいのです。

もちろん数値化できる事柄はあります。金沢大学では例えば受け入れ・派遣留学生の数を増やしたり、英語で行う授業の数を増やしたり、科研費という研究助成の採択数を上げようとしています。これらのことはもちろん重要ですが、その理由は、それ自体に価値があるからではなく、真理探究という目的をよりよく達成するための手段であったり、環境であったりするからなのです。そのことを我々大学人は常に忘れてはならないと思います。

皆さんはこれから、真理探究に取り組む組織のメンバーになるわけです。最初は基礎的な内容の授業が多く、その究極の目的が見えにくいことと思います。その後、ある程度まで勉強が進めば、数値化できない真理探究という試みの魅力が見えてくるでしょう。私たち教員は、皆さんが学び、学び、そして学んで、近い将来、この試みに加わってくれることを願っています。

足立英彦（金沢大学法学類）